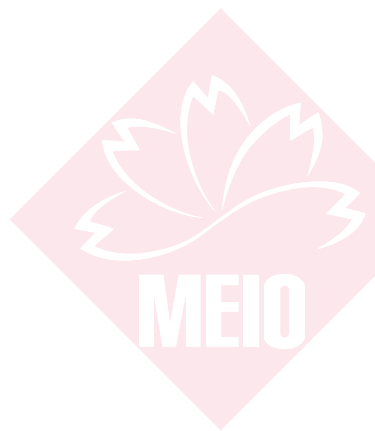


VI

専門教育 看護学科について





1. 看護学科の教育理念

看護学科の教育理念は、本学の建学の精神でもある「平和・自由・進歩」を踏まえ、生命の尊厳と人権を尊重し、擁護する倫理観と豊かな幅広い人間性を培うとともに、その人がその人らしく生きられるように、ヒューマンケアを提供できる質の高い看護専門職者を育成することです。また、保健医療福祉を統合的に捉え、社会のニーズに対応し、地域社会及び国際社会に貢献しうる実践能力のある健康支援人材を育成します。

そのために、看護学科では人間のこころとからだの理解を基盤として、生きるものの意味や人間をホリスティックに理解することを学び、健康に関わる専門知識・技能を統合的に修得します。また、健康の保持、増進の方策を科学的に探究し、『市民参画型の健康づくりを支援する専門職（看護の対象となる人、一人ひとりが健康づくりに参画することを支援する専門職）』の育成を目指します。

2. 参画型看護教育の実践に向けて

【市民が主人公となる保健医療福祉の場を創出する教育】

少子高齢化の進行、在院日数の短縮、地域包括ケアシステムの推進など、保健医療福祉を取り巻く環境は大きく変化しており、地域で暮らす人々の生活を志向した新たな看護教育が求められています。これからの時代、看護職は市民と協働して健康を回復し、平和と希望の中で生きることができるよう、保健医療福祉の場において市民の健康に生きる権利の擁護者として活躍することが期待されています。このような時代において、創造的に学び続ける自己教育力の高い看護専門職者を育成するのが参画型看護教育です。

【学生が主人公として成長する参画型看護教育】

看護学科では、学生が主体的に学び、看護に求められる知識・技能を備え、看護を創造する力を培うための参画型看護教育を取り入れています。学生は学ぶ主体（主人公）としてコミットメント能力（参画力）を育てていきます。コミットメント能力とはその場や状況の只中に自己を投げ入れ（プロジェクト）、自己を成長（超我）へと向かわせる力です。学生は教師や仲間との対話を通して授業へ参画し、少人数教育やゼミ学習を通して大きく成長します。また、学生それぞれが自らのキャリアデザインを描きながら、看護師・保健師国家試験受験資格を取得できるよう教育課程を用意しています。

3. 教育目標

- 1) 幅広い教養を身につけた良識のある社会人として、思いやりのある豊かな人間性を培い、人間としての尊厳と権利を擁護できる能力を養う。
- 2) 多様な背景をもつ人々と信頼関係を築き、看護専門職としてケアリングとヘルスプロモーションの能力を育成する。
- 3) 成長し続ける看護職として、自己評価能力、自己教育力を身につけ、倫理的判断力とクリティカルシンキングに支えられた実践能力を育成する。
- 4) 保健、医療、福祉において看護専門職として自立性と参画力を育むとともにヒューマンサービスを提供する人々との協働者、調整者としての能力を養う。
- 5) 看護の社会的役割を認識し、国際性を育みながら広く社会に貢献する能力を養う。
- 6) 科学的な探究心及び研究開発能力を培い、知識創造の喜びを感じ、創造的な人間として看護実践科学の発展に貢献できる能力を養う。



1. 看護学科の教育

看護学科は学生が主体（主人公）となる教育実践を目指し、学生自らが授業創りに参画する協働探究を中心とした双方向型の教育、少人数教育を実践するためにゼミ、クラスワークを主体とした『教授－学習過程』を取り入れています。教育課程編成の基本的な考え方は、学生自らが学ぶ主体として成長していくための参画力を身につける『学生参画型看護教育』です。具体的には、協同学習理論をもとに、学生一人ひとりの個性を大事にするカードメソッドを教授法に応用しています。

このような協働探究をとおしてダイナミックに知識創造の「場」作りが学生の手によって営まれます。受身的な学習態度や一方向的な形式の授業ではなく、学生と教員が協働して授業を進めていきます。学生の自己教育力、自己評価力、協働参画力の育成を目標にカリキュラムを編成しています。

2. 教育課程のすすめ方

『学生参画型看護教育』は、学生が自ら学ぶ主体として成長していくために、参画力を身につける体系化された教授法です『学生参画型看護教育』では、「自己との対話」「他者との対話（仲間、教員、職員との）」「地域社会との対話」をとおして「個の自立と成長」、「個の学習目標の達成」、「自己教育力の育成」を目指しています。そのため、ゼミ単位、クラス単位、また学年全体での授業とさまざまな授業スタイルを取り入れ、特にゼミ活動を中心とした教養演習やケアリング文化実習では、学生が教員とともに授業を運営する形式をとっています。ゼミは6～8人など、授業内容に合わせて柔軟に運用しています。そのことにより、学生個々の学習支援や生活支援がスムーズになり、学習時間の確保や試験前の学習に取り組む姿勢など、学習意欲の向上、学習継続への意欲などの効果が得られています。

	一年次	二年次	三年次	四年次
目標	参画型看護教育の基本理念、及び学習方法の取得と評価	参画型看護教育の学習方法の活用と評価	参画型看護教育の学習方法の発展と評価	参画型看護教育を活用したキャリア開発と評価
自己教育力を育む3つの対話	①自己との対話 看護キャリア開発 キャリアデザインⅠ 教養演習Ⅰ 教養演習Ⅱ	キャリアデザインⅡ	キャリアデザインⅢ 看護研究方法	キャリアデザインⅣ 卒業研究
	自分自身との対話を通して自己理解を深め、看護職としてのキャリア開発を行なう。			
	②他者との対話 参画型授業開発			
	授業・学内行事などを通じて仲間・教員・職員と対話し、自らがカリキュラム開発を行なう。			
	③地域との対話 参画型看護実績	ケアリング文化実習Ⅲ 基礎看護実習	小児看護実習 母性看護実習 成人看護実習Ⅰ 成人看護実習Ⅱ 高齢者看護実習 精神看護実習 在宅ケア実習	ケアリング文化実習Ⅳ 総合実習 公衆衛生看護実習Ⅰ 公衆衛生看護実習Ⅱ
	フィールド活動、看護実習を通して地域への関心を深めケア文化の開発を行なう。			

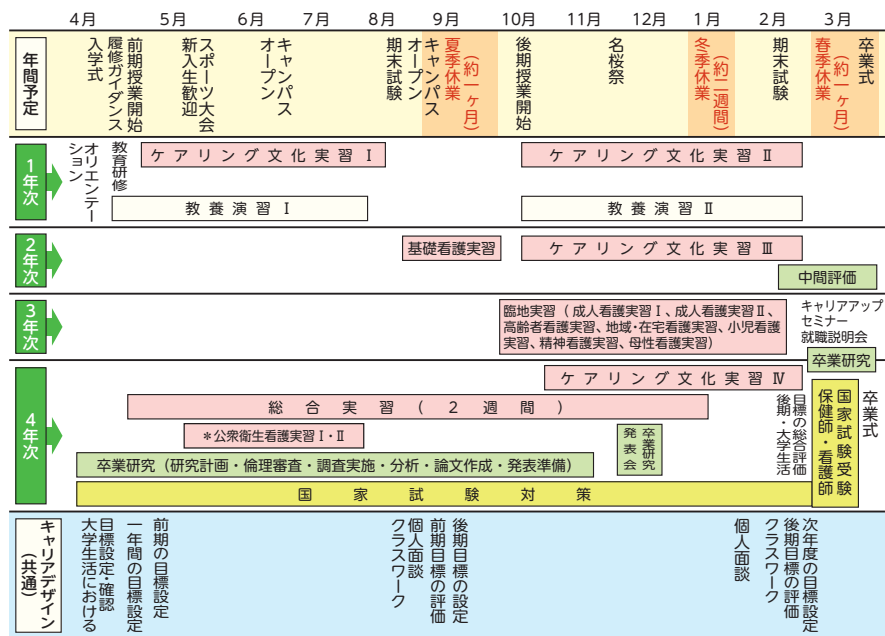
図1. 学生参画型看護教育の特徴

3. 教育課程の展開

『学生参画型看護教育』の実践の特徴は以下の通りです。

1年次から4年次までキャリアデザイン科目が配置されており、キャリアデザインを確立していきます。各年次の最後には、1年間の学びの評価を行い、課題についてはグループで話し合い、問題解決に向けた方法を協働探究します。また、必要時にアドバイザーと個人面談を行い、学生個々の学習状況や生活状況を振り返ります。

- 1年次では、本学における学習者としての基本的な心がまえや学習方法として、自己の学習目標を明確にします。クラスやゼミ活動の進め方についても話し合い（クラスワーク・ゼミワーク）、学生自らクラス活動を企画、運営します。
- 2年次では、自分自身のアイデンティティの確立をめざして、将来のキャリアデザインを描きます。クラスワークでは、クラス活動の進め方に関するアクションプランを立てて実践します。2年次後学期には中間評価としてこれまでの歩みを振り返り、英語力、看護の専門知識、看護技術、ライティング力等を総合して今後の目標を設定します。
- 3年次では、自分らしい専門性の獲得をめざしてキャリアデザインを学生自らが企画、運営し、3年次の学習目標を作成します。
- 4年次では、卒業後の進路の開拓をめざしてキャリアデザインを学生自らが企画、運営し、4年次の学習目標を作成するとともに、4年間の学びを評価し後輩へ伝承していくことを目標とします。



*保健師課程選択コースのみ

図2. 4年間のスケジュール

授業科目の区分と卒業に必要な単位数



1. 卒業に必要な単位数

卒業判定に当たっては、学則で定めた基準による所定の単位を修得する必要があります。人間健康学部看護学科の卒業に必要な単位数は126単位です。科目区分の詳細は、名城大学人間健康学部履修規程の別表3及び4を参照しましょう。なお、「自由選択科目」には、それぞれの科目区分からとるべき単位数を超えて、修得した単位がカウントされます。

表1. 卒業要件

科目区分			必 修	選 択	卒業に必要な単位	小 計
教養教育科目	共通コア	アカデミックスキル	8	0	8単位以上	28単位以上
		ライフデザイン	2	0	2単位以上	
		思想と論理	0	2	2単位以上	
		沖縄理解	0	2	2単位以上	
		健康・スポーツ	0	2	2単位以上	
	共通選択	外国語	2	2	4単位以上	
		国際理解	0	2	8単位以上 (統計学のみ必修)	
		人文科学	0	2		
		社会科学	0	2		
		自然科学	2	0		
専門基礎科目	専門基礎分野	人体の構造と機能 疾病の成り立ちと回復の促進	16	0	16単位以上	22単位以上
		健康支援と社会保障制度	6	0	6単位以上	
専門教育科目	専門分野	基礎看護学	11	0	11単位	74単位以上
		地域・在宅看護学	6	0	6単位	
		成人看護学	6	0	6単位	
		母性看護学	4	0	4単位	
		小児看護学	4	0	4単位	
		高齢者看護学	4	0	4単位	
		精神看護学	4	0	4単位	
		看護の総合と実践	12	0	12単位以上	
	臨地実習		23	0	23単位	
自由選択科目			0	2	2単位以上	2単位以上
卒業に必要な単位			110	16	126単位以上	

取得できる免許・資格について



1. 看護師国家試験受験資格（全員）

4年間の指定されたカリキュラムを履修し、単位を修得することにより、**看護師国家試験受験資格**が得られます。国家試験は毎年2月中旬に行われ、3月下旬に合否が発表されます。

2. 保健師国家試験受験資格（保健師課程選択コース）

4年間の指定されたカリキュラム及び保健師課程選択コースのカリキュラムを履修し、単位を修得することにより、**保健師国家試験受験資格**が得られます。国家試験は毎年2月中旬に行われ、3月下旬に合否が発表されます。

※保健師助産師看護師法により、保健師の免許取得には看護師の資格を有することが条件です（保健師免許は、保健師国家試験及び看護師国家試験に合格した者の申請により保健師籍に登録することによって行います/保健師助産師看護師法第12条）。

3. 養護教諭二種免許状（保健師課程選択コース）

養護教諭は、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校等において、児童・生徒の養護を担う専任の教員です。養護教諭二種免許状は保健師免許を取得した後に、都道府県の教育庁に申請することにより取得できます。ただし、在学中に指定された教職科目を履修し、単位を修得することが必要になります。

なお、指定された教職科目は以下の科目です。

- ・憲法
- ・体育実技Ⅰ、体育実技Ⅱ、健康・スポーツ科学の3科目のうち2科目
- ・ベーシック・イングリッシュ（Ⅰ/Ⅱ/Ⅲ）
- ・コンピュータ・リテラシー

4. 第一種衛生管理者申請資格（保健師課程選択コース）

第一種衛生管理者とは、労働安全衛生法により、常時50人以上の労働者を雇用する事業所等に配置されるもので、保健師免許取得後に労働基準局への申請により取得できます。

5. 目指す進路・就職先

看護師・保健師（病院、診療所、保健施設、福祉施設、保育園、訪問看護ステーション、行政機関、企業の健康管理室、看護教育機関）、大学院および助産学専攻科進学等



単位の算定方法

授業形態	単位数	授業時間	1 セメスターあたりのコマ数
講義・演習	1 単位	15～30時間	7～15コマ+期末試験
	2 単位	30～45時間	15～22コマ+期末試験
臨地実習	1 単位	45時間	1 週間

臨地実習について

4 年間の実習計画

- 1) 臨地実習は、看護師課程で23単位、保健師課程で4単位が計画されています。1年次から開始し、4年次まで段階的な学習が計画されています。それぞれの実習には、各概論や方法論等の所定の科目の単位を修得した学生のみ実習を履修することが出来るなどの前提条件があるため、必ず各科目のシラバスを確認して下さい。
- 2) 単位認定に関する実習評価
実習評価は、実習目標到達度・記録物・レポート・実習態度等により科目責任者が行います。原則として、4/5以上の出席がない場合は、実習評価を受けることができません。また、原則として補充実習及び追実習は行いませんが、公欠席（忌引き、感染症等の登校禁止の診断書がある時）等で、必要と判断された場合のみ、所定の手続きを経て補充実習あるいは追実習を行うことがあります。

看護学科年次履修モデルと進級要件



1 年次		2 年次		3 年次		4 年次		
前学期		後学期		前学期		後学期		
教養教育科目	教養演習Ⅰ コンピュータ・リテラシー アカデミックライティング 統計学 パーソナルイングリッシュⅠⅡⅢⅣ	教養演習Ⅱ						
	大学と人生 思想と論理 沖縄理解 健康スポーツ 外国語	ライフデザイン 国際理解 人文科学 社会科学 自然科学						
専門基礎教育科目	解剖生理学Ⅰ 栄養・生化学	解剖生理学Ⅱ 病理生理学(含:病理学) 生涯発達論 医療英語 健康社会学(含ジェンダー論) 人間関係論	病態治療学Ⅰ(内科系疾患) 病態治療学Ⅱ(外科系疾患) 臨床薬理学 微生物学 精神保健 公衆衛生学 保健福祉行政論Ⅰ 疫学	保健福祉行政論Ⅱ 産業保健学 保健統計学 保健行動論	症候学Ⅰ		症候学Ⅱ	
専門教育科目	キャリアデザインⅠ		キャリアデザインⅡ		キャリアデザインⅢ		キャリアデザインⅣ	
	看護学概論＊ セルフケア論＊ 地域・在宅看護学概論	セルフケア援助技術＊ 沖縄の文化と看護	療養生活援助技術＊ 成人看護学概論＊ 高齢者看護学概論＊ 老年学 母性看護学概論＊ 小児看護学概論＊ 精神看護学概論＊ グローバルナースィングⅠ	看護実践論Ⅰ＊ 看護実践論Ⅱ＊ フィジカルアセスメント＊ 地域包括ケア論 家族看護学 女性の健康科学 こどもの健康科学 こころの健康科学 公衆衛生看護学概論Ⅰ 公衆衛生看護学概論Ⅱ 災害看護学Ⅰ	地域・在宅看護方法論 成人看護方法論Ⅰ 成人看護方法論Ⅱ がん看護論 母性看護方法論 小児看護方法論 高齢者看護方法論 精神看護方法論 公衆衛生看護方法論Ⅰ 公衆衛生看護活動論	看護倫理 看護研究方法↑ 公衆衛生看護方法論Ⅱ	卒業研究 看護マネジメント論 グローバルナースィングⅢ 島嶼・過疎地看護論 看護実践と理論 災害看護学Ⅱ 公衆衛生看護管理論	
					グローバルナースィングⅡ			
	ケアリング文化実習Ⅰ 臨地実習	ケアリング文化実習Ⅱ		基礎看護実習＊ ケアリング文化実習Ⅲ		成人看護実習Ⅰ↑ 成人看護実習Ⅱ↑ 母性看護実習↑ 小児看護実習↑ 高齢者看護実習↑ 精神看護実習↑ 地域・在宅看護実習↑	ケアリング文化実習Ⅳ 総合実習 公衆衛生看護実習Ⅰ 公衆衛生看護実習Ⅱ	
	2 セメスタ以上在学		2 セメスタ以上在学＋ 基礎看護学全ての科目と基礎看護実習＋ 各領域の概論		2 セメスタ以上在学＋ 各領域の実習＋看護研究方法			

下線の科目は選択科目です。太字の下線の科目は保健師課程選択コース必修科目です。
グローバルナースィングⅡ（選択科目）は2～4年次の間で履修できます。

＊は3年生への進級に必要な科目、↑は4年生への進級に必要な科目を示しています。

看護学科カリキュラムマップ



DP1

豊かな教養、深い専門性、高い倫理性を兼ね備え、生命の尊厳と人権を尊重し擁護する力

DP2

地域社会や国際社会の課題に取り組み探求し続けるための生涯学習力

DP3

自由な発想で課題を発見し、批判的・論理的に施行し、解決する力を身につけ、人々の健康と福祉に寄与する力



4 年 次	専門基礎教育科目 (選択科目) 症候学Ⅱ	専門教育科目 看護マネジメント論 島嶼・過疎地看護論 (選択科目) 災害看護学Ⅱ*1 看護実践と理論 卒業研究
3 年 次	専門基礎教育科目 症候学Ⅰ	専門教育科目 看護倫理 がん看護論 成人看護方法論Ⅰ 成人看護方法論Ⅱ 高齢者看護方法論 地域・在宅看護方法論 母性看護方法論 精神看護方法論 小児看護方法論 看護研究方法
2 年 次	専門基礎教育科目 病態治療学Ⅰ (内科系疾患) 病態治療学Ⅱ (外科系疾患) 臨床薬理学 微生物学 公衆衛生学 保健福祉行政論Ⅰ (選択科目) 精神保健 保健福祉行政論Ⅱ*1 産業保健学*1 疫学*1 保健統計学*1 保健行動論*1	専門教育科目 地域包括ケア論 老年学 家族看護学 女性の健康科学 こどもの健康科学 こころの健康科学 看護実践論Ⅰ 看護実践論Ⅱ フィジカルアセスメント 療養生活援助技術 成人看護学概論 高齢者看護学概論 母性看護学概論 小児看護学概論 精神看護学概論
1 年 次	全学教養教育科目 教養演習Ⅰ 教養演習Ⅱ コンピュータ・リテラシー アカデミックライティング 統計学 ベーシック・イングリッシュ 大学と人生 思想と論理 沖縄理解 健康スポーツ 外国語 ライフデザイン 国際理解 人文科学 社会科学 自然科学	専門基礎教育科目 解剖生理学Ⅰ・解剖生理学Ⅱ 栄養・生化学 病態生理学 生涯発達論 医療英語 (選択科目) 人間関係論 家族社会学(含:ジェンダー論)

DP4

多様な視点を尊重し、自らの意見をわかりやすく表現する力

DP5

看護を必要とする人を全人的にとらえ、科学的根拠に基づき、看護を計画的に実践する力

DP6

自律性と参画力を備え、関連する専門職者及び地域と協働・連携する力

臨地実習

総合実習

(選択科目)

グローバルナースィングⅢ

臨地実習

成人看護実習Ⅰ
成人看護実習Ⅱ
高齢看護実習
小児看護実習
母性看護実習
精神看護実習
地域・在宅看護実習

臨地実習

基礎看護実習

災害看護学Ⅰ

グローバルナースィングⅠ
公衆衛生看護学概論Ⅰ

(選択科目)

公衆衛生看護学概論Ⅱ*¹

専門教育科目

沖縄の文化と看護

看護学概論

セルフケア論

セルフケア援助技術

地域・在宅看護学概論

(選) グローバルナースィングⅡ

ケアリング文化実習Ⅳ

キャリアデザインⅣ

キャリアデザインⅢ

ケアリング文化実習Ⅲ

キャリアデザインⅡ

ケアリング文化実習Ⅰ

ケアリング文化実習Ⅱ

キャリアデザインⅠ

保健師課程 (選抜)

保健師科目

— 4 年次 —

公衆衛生看護管理論
公衆衛生看護実習Ⅰ
公衆衛生看護実習Ⅱ

— 3 年次 —

公衆衛生看護活動論
公衆衛生看護方法論Ⅰ
公衆衛生看護方法論Ⅱ

*¹保健師課程希望者は必須科目



1. 保健師国家試験受験資格要件の科目の選択制について

2年次後学期に保健師課程選択コース（編入学生含む）を決定します。選抜方法は、面接、小論文、1～2年次のGPA、クラス及び大学内外などでの活動実績などを点数化して決定します。活動状況の根拠資料としてポートフォリオの提出を求めることもあります。

保健師課程選択コースは、必修科目の単位が145単位（卒業要件126単位＋19単位）です。

どのような大学生活を送りたいのか、将来、どのような看護専門職になりたいのか等をよく考えて、履修計画を立てることが大切です。

表6. 保健師国家試験受験資格要件の選択科目

受講年次		授業科目名	単位数	科目区分	区 分
2年次	前	疫学	2	健康支援と社会保障制度	専門基礎教育科目
	後	保健統計学	2	健康支援と社会保障制度	
	後	保健行動論	1	健康支援と社会保障制度	
	後	保健福祉行政論Ⅱ	1	健康支援と社会保障制度	
	後	産業保健学	1	健康支援と社会保障制度	
	後	公衆衛生看護学概論Ⅱ	1	看護の統合と実践	
3年次	前	公衆衛生看護活動論	1	公衆衛生看護学	専門教育科目
	前	公衆衛生看護方法論Ⅰ	2	公衆衛生看護学	
	後	公衆衛生看護方法論Ⅱ	2	公衆衛生看護学	
4年次	前	公衆衛生看護実習Ⅰ	1	臨地実習	
	前	公衆衛生看護実習Ⅱ	3	臨地実習	
	後	公衆衛生看護管理論	1	公衆衛生看護学	
	後	災害看護学Ⅱ	1	看護の統合と実践	
計			19		

※2年次の開講科目は、保健師課程選択コース希望者以外でも履修できます。

※3年次と4年次の科目は保健師課程選択コース学生のみ履修します。ただし、「災害看護学Ⅱ」は、保健師課程以外の学生も履修できます。

2. 保健師国家試験受験資格要件科目の履修計画について

保健師課程選択コースに必要な科目履修は、2年次前学期から開始します。

また、2年次後学期に保健師課程選択コースの学生が決定され、3年次からは看護師国家試験受験要件（卒業要件）に必要な科目の履修と同時進行で保健師課程選択コースの必修科目を履修します。

4年次前学期の「公衆衛生看護実習Ⅰ」「公衆衛生看護実習Ⅱ」の前提条件は、3年次後学期までに履修すべき専門教育科目の単位を修得していることです。

なお、保健師免許を取得後、都道府県への申請により養護教諭二種の免許状が取得できませんが、憲法、体育（体育実技Ⅰ、体育実技Ⅱ、健康・スポーツ科学の3科目のうち2科目）の単位修得が必要です（就職希望者は各県教員採用試験の受験が必要）。

修得済みの項目にチェックを入れましょう

※履修中の科目は☑、修得済みの科目は■

() 内は開講時期

学生番号 _____ 氏名 _____

専門教育科目 (講義・演習)	1 年次	☐ キャリアデザインⅠ(通) ☐ 看護学概論(前) ☐ セルフケア論(前) ☐ 地域・在宅看護学概論(前) ☐ セルフケア援助技術(後) ☐ 沖縄の文化と看護(後)
	2 年次	☐ キャリアデザインⅡ(通) ☐ 療養生活援助技術(前) ☐ 地域包括ケア論(後) ☐ 成人看護学概論(前) ☐ 高齢者看護学概論(前) ☐ 老年学(前) ☐ 母性看護学概論(前) ☐ 小児看護学概論(前) ☐ 精神看護学概論(前) ☐ グローバルナースⅠ(前) ☐ 看護実践論Ⅰ(後) ☐ 看護実践論Ⅱ(後) ☐ フィジカルアセスメント(後) ☐ こどもの健康科学(後) ☐ 女性の健康科学(後) ☐ 災害看護学Ⅰ(後) ☐ こころの健康科学(後) ☐ 公衆衛生看護学概論Ⅰ(後)
	3 年次	☐ キャリアデザインⅢ(通) ☐ 地域・在宅看護方法論(前) ☐ 成人看護方法論Ⅰ(前) ☐ 成人看護方法論Ⅱ(前) ☐ がん看護論(前) ☐ 小児看護方法論(前) ☐ 母性看護方法論(前) ☐ 精神看護方法論(前) ☐ 高齢者看護方法論(前) ☐ 看護研究方法(後) ☐ 看護倫理(通)
	4 年次	☐ キャリアデザインⅣ(通) ☐ 卒業研究(通) ☐ 島嶼・過疎地看護論(後) ☐ 看護マネジメント論(前)
専門教育科目 (臨地実習)	1 年次	☐ ケアリング文化実習Ⅰ(前) ☐ ケアリング文化実習Ⅱ(後)
	2 年次	☐ 基礎看護実習(前) ☐ ケアリング文化実習Ⅲ(後)
	3 年次	☐ 成人看護実習Ⅱ(後) ☐ 母性看護実習(後) ☐ 小児看護実習(後) ☐ 高齢者看護実習(後) ☐ 精神看護実習(後) ☐ 地域・在宅看護実習(後) ☐ 成人看護実習Ⅰ(後)
	4 年次	☐ ケアリング文化実習Ⅳ(後) ☐ 総合実習(前) ☐ 自由選択科目(2単位以上)

※履修中の科目は☑、修得済みの科目は■

() 内は開講時期

学生番号 _____ 氏名 _____

保健師課程コース (必修科目)	☐ 疫学 (2 前)	☐ 産業保健学 (2 後)
	☐ 保健行動論 (2 後)	☐ 保健福祉行政論Ⅱ (2 後)
	☐ 災害看護学Ⅱ (4 後)	☐ 公衆衛生看護学概論Ⅱ (2 後)
	☐ 公衆衛生看護活動論 (3 前)	☐ 公衆衛生看護方法論Ⅰ (3 前)
	☐ 公衆衛生看護方法論Ⅱ (3 後)	☐ 公衆衛生看護管理論 (4 後)
	☐ 保健統計学 (2 後)	
	☐ 公衆衛生看護実習Ⅰ (4 前)	☐ 公衆衛生看護実習Ⅱ (4 前)

※履修中の科目は☒、修得済みの科目は☐

修得済みの項目にチェックを入れましょう

Ⅰ 人間健康
Ⅱ 学修について
Ⅲ 履修登録から単位修得まで
Ⅳ 教養教育
Ⅴ スポーツ健康
Ⅵ 看護学科
Ⅶ 健康情報学科
Ⅷ 副専攻
Ⅸ 諸手続き
Ⅹ 学則・諸規程
Ⅺ 付録

() 内は開講時期

学生番号 _____ 氏名 _____

専門教育科目 (講義・演習)	☐ 地域包括ケア論 (3 後) ☐ 沖縄の文化と看護 (3 後) ☐ グローバルナーシングⅠ (3 前) ☐ 家族看護学 (3 後) ☐ 公衆衛生看護活動論 (3 前) ☐ 災害看護学Ⅰ (3 後) ☐ 公衆衛生看護方法論Ⅰ (3 前) ☐ 看護研究方法 (3 後) ☐ 公衆衛生看護学概論Ⅰ (3 後) ☐ 看護倫理 (3 通) ☐ 公衆衛生看護学概論Ⅱ (3 後) ☐ キャリアデザインⅢ (3 後) ☐ 公衆衛生看護方法論Ⅱ (3 後)
	☐ 卒業研究 (4 通) ☐ キャリアデザインⅣ (4 通) ☐ 災害看護学Ⅱ (4 後) ☐ 島嶼・過疎地域看護論 (4 後) ☐ 看護マネジメント論 (4 前) ☐ 公衆衛生看護管理論 (4 後)
専門教育科目 (臨地実習)	☐ ケアリング文化実習Ⅲ (3 後)
	☐ 公衆衛生看護実習Ⅰ (4 前) ☐ ケアリング文化実習Ⅳ (4 後) ☐ 公衆衛生看護実習Ⅱ (4 前)

※履修中の科目は☑、修得済みの科目は■